## 歷史認識研究会

11月16日

## 近くて遠い隣国、韓国

静岡県立大学国際関係学部教授 静岡県立大学現代韓国朝鮮研究センター所長 伊豆見 元 氏

歴史認識研究会(座長 森下俊三・小嶋淳司 両代表 幹事)は、静岡県立大学国際関係学部教授で静岡県立 大学現代韓国朝鮮研究センター所長の伊豆見 元 氏を 招き、「日韓関係の過去と現在、将来展望~歴史的視 点から~」と題して講演会を開催した。以下要旨。

## 歴史問題は時間が解決する

歴史問題に対して、日本人は謙虚でなければならない し、韓国人は寛容でなければならないが、特に20歳以下 の韓国の若い世代は、日本との歴史問題に対してあまり 関心をもっていない。この人たちが社会を担うときには、 歴史問題は問題視されなくなっていると思う。

## 日韓関係をどう見るか

2005年は、竹島問題、歴史教科書問題、靖国問題、韓国の保護国化100年と多くのイベントがあったが、大きな問題にはならなかった。上の世代のジャパンバッシングはあったが、若い世代は、無視・無関心だった。

安倍政権誕生後、10月 9日に日韓首脳会談が実 現し、日韓関係が決定的 に破綻しないという歯止 めになった。安倍政権は、 自由主義・市場経済国家 である韓国と創造的な関



係を構築したいと望んでいるが、韓国は、北朝鮮と中国 に対して、日本とは共通の価値観を共有することができ ないと考えているため、消極的な姿勢である。

韓国は大陸-中国・ロシア・北朝鮮-にアイデンティティを持つのか、海洋-米国・日本-にアイデンティティを持つかについて、戦後は、無理やり米国・日本と良好な関係を築いてきたが、経済成長を遂げた現在では、大陸にアイデンティティを持つと考えたほうがおさまりがよいと感じているのでないかと思う。

盧 武鉉政権の支持率は12%で人気がなく、あと1年で終わる。荒唐無稽かもしれないが、12月に6カ国協議が再開され、その2ヵ月後に次回の6カ国協議が開催されるが、その間に「平和」をアジェンダに南北首脳会談が開催される可能性がある。さらにこの平和へのアプローチとして、与党が韓国の「徴兵制」撤廃を表明し、選挙で大勝するというシナリオも考えられる。(文責事務局)